

令和6年度第2回たちばな支援学校学校運営協議会

令和6年度 第2回 令和6年12月11日(水)

出席者:委員8名、傍聴人7名

議題

- ① 本年度の取り組みの状況について(中間報告)
 - ・各学部
 - ・たちばな応援団について
 - ・学校運営に係る重点目標について
- ② 意見交換
- ③ 本校で育ってほしいこどもの姿について

協議した内容

- ① 本年度の取り組みの状況について(中間報告)
<各学部の教科のねらいや授業の工夫について写真等を交えて紹介(各学部主事より)>
小学部
 - 大切にしていること
個別に応じた支援を大事に コミュニケーションの手がかり (ipad の活用など)
賞賛を基本にした関わり 基礎的な力をつけていくことを大事にしている。
 - 重点目標に関わること
防災学習 起震車体験、防災食等、体験しながら学ぶ。年間4回程度。
地域協働の取組 湯浅なすの栽培 ゲストティーチャーによる授業(外部の方との関わり)
居住地校交流(年1回)
 - 課題:若手教員が多いため、授業づくりについて振り返りの機会を設けるが、意見が出にくい。
危機管理 こどもの動きを把握し、予測して対応することが難しく、怪我などに繋がっている。中学部
 - 大切にしていること
思春期に入る時期(心身の調和を大事に)
集団の中で力を発揮、仲間とともに学び合う → 学年目標の設定
 - 重点目標に関わること
自立活動 全校研修と学部研修で研鑽を積んでいる。グルーピングを工夫して実施。
 - 課題:集団を大事にした取り組みを行い、行事では、1、2学期の成果が発揮できた。
地域との連携において、学校間交流や職業体験は行っているが、外部講師の活用が少ない。高等部
 - 大切にしていること
類型別、学部全体、学年など、様々な集団で学び、主体性などの力を育てている。
 - 重点目標に関わること
自立活動の充実…人と関わる中で学んでほしい(情緒の安定、不適切な言動、対人関係の未熟さ)
和歌山大学との共同研究 伝える・しっかり聞く 自他を知り自己肯定感を得る
地域に根ざした学校作り…外部講師や地域資源の活用
作業班(外部講師と新たな製品開発)、(企業等へ花壇整備、花苗植え 納品)
スポーツクラブ(日高中津分校と交流)、農耕園芸班(有田中央高校と交流)
県内支援学校8校と作業学習のリモート交流

安心・安全な学校作り…防災学習 自主通学生がJR 車両からの避難訓練を実施等实际的な学び
地域貢献…広村堤防の清掃、公衆トイレの清掃

○課題：教員の入れ替わりが多く、高等部の授業のねらいや指導・支援方法の継承が困難。

様々な学習集団で学ぶため、横断的につながっている姿を見ることができる。

< たちばな応援団について >

進路指導・就労に関すること（進路指導部長より）

障がい者就労促進セミナー（ハローワークと共催） 1 月 5 日に実施…22 社、25 名が参加

○成果について

本校の生徒のことを知ってもらう

生徒の自立と社会参加について、ともに考え応援してもらう。

（株）ル・リール（作業製品の販売所）、

わかやま市民生活協同組合湯浅物流センター（花壇の整備、花苗植え／挨拶等、課題について指導）

ハローワーク湯浅（就職説明会講師）

カルフル・ド・ルポ印南（職業ガイダンス講師／働くことについて具体的に教授）

広川苑・生協湯浅物流センター（就労体験実習受入れ／指導）

ゲストティーチャー（外部講師）活用について（校長より）

外部の方の専門的な知識や関わりを授業に取り入れ、児童生徒の教育内容の充実に繋がっている。

また、教員以外の方から学ぶ機会として、コミュニケーション力や自立を促すことに繋がる。

高等部作業（農耕園芸班に）応援団として外部講師が毎週来校してくれている。（校長通信 8 号）

*** 広げていくためにも、新たに紹介していただけたら有り難い。**

< 学校運営に係る重点目標について >

今年度の取り組みについて（校長より）

1. 授業づくりのスキルを深める研修

授業を深める取り組みの一環として「自立活動」について全校研・学部研で取り組んでいる。

2. 働き方改革

学校課題について運営委員会で協議し、働き方改革に取り組んでいる。

ICT 機器の活用 情報の整理、共有について

行事の取組内容の整理

3. 地域との取組

広川町の合同避難訓練への参加や各学部の交流学习

*** 地域との取り組みが広がっていくよう、発信の仕方など教えていただきたい。**

4. 教員のこどもへの関わり方など人権について

ヒヤリハット・アクシデントの共有

*** 意識の変容が見られない先生への働きかけなどを教えていただきたい。**

② 意見交換

〔人材育成、変容が見られない教員への働きかけ〕

- ・企業等職場における人の育て方…経験年数に応じた研修を行う。ベテランを新人につけて教えていく。
- ・人材育成は難しい問題であるため、モチベーションを上げるための取組が必要。
- ・指導や助言の中でハラスメントと受け取られることがある。受け止めが異なる場合があるが、気を遣うと注意できなくなる。相談を受ける場合は、複数人で対応することにしている。
- ・ハラスメントは発信できる相手を確保しておくことが重要。聞くことが大切であり、相談窓口（人事権のない人）を設けておく必要がある。
- ・従業員とのコミュニケーションがうまくいっているところは、問題も少ない傾向
- ・コロナ前に比べると、組織全体がどちらを向いて進んでいるかが分かりにくい状況である。いろんな人、

いろんな考え方の人があり、全体の方向や方針などが共有しにくくなっている。共有の工夫が必要。

- ・育成会の役員や理事の中でも温度差を感じる。学校全体での取り組みが減り、理事を受けやすくなったことは良いが、一緒に活動することが減ったため、コミュニケーションが少なくなってきた。
- ・働きやすい、雰囲気の良い職場をつくるにはどうすればいいのかを考える。
飲みに行ってしゃべったり、飲み会でなくても腹を割って話す機会が必要ではないか。会議でもお菓子を食べながら、和ませるなどの工夫はどうか。
- ・育成会は、和める雰囲気にしていきたいと思う。
- ・危機管理については、子どもの命を預かっているのだから、若手や経験等関係なく強く伝えていくことが必要ではないか。

[地域連携、外部講師（たちばな応援団）]

- ・ゲストティーチャーについては、もっと声をかけてほしい。行動を起こすことが大切。
- ・各学部の紹介は、分かりやすかった。きめ細やかな取組だと感じた。保護者に伝える機会があると安心して子どもを預けられると思う。せっかくなのでもっと発信していくといいのではないか。
- ・12年間通してどんな教育内容なのか知ってもらうには、発信が大事。入学の機会だけでなく、他学部の取り組みも含め発信するとよいと思う。
- ・就労支援に関わり、高等部しか知らなかったのが、今回、小中の取組が分かってよかった。これを見える化していくと、応援団も増えるのではないかと思った。
- ・小中高の取り組みの流れがよく分かってよかった。
応援団については、学校側が何を必要としているのか、具体的に発信していくと、更に協力しやすいのではないか。
- ・中学部の運動会に来て参観した。先程の学部の紹介内容と繋がってよく理解できた。
中学部の時から自分たちで企画や運営の経験をして、それを高等部に繋げていくのは大変よいと思った。

③ 本校で育てほしいこどもの姿について

教師にとって、こどもに身につけさせたい力は「学校教育目標」としてあるが、こどもにとって分かりやすいもの、目標にできるものを考えたいと思っている。
キーワードとなることばを次回の運営協議会で聞かせて欲しい。